

A  
J  
U

# みずほ

NPO 法人脳外傷友の会みずほ  
会報 第 6 2 号



〒460-0021  
名古屋市中区平和 2-3-10 仙田ビル 2F  
TEL・FAX(052)253-6422

メールアドレス npo-mizuho@miracle.ocn.ne.jp  
ホームページ http://www15.ocn.ne.jp/~n-mizuho/

H26 年 3 月 18 日  
NPO 法人脳外傷友の会  
みずほ 発行



## 目次

日本の社会保障制度の現状	2
脳外傷リハビリテーション講習会	3
高次脳機能障害研修会	6
ABIA (愛知脳損傷協議会)	8
我が子・家族の経過と現状	10
事務局便り	11
企画グループ、キッズプラス、若い失語症の集い	12
クリスマス会	13
ワークハウスみかんやま	14
お知らせ	16

**日本の社会保障制度の現状**

理事長 吉川雅博

平成 26 年 4 月 1 日より、消費税が 8%になります。増税分はすべて社会保障の充実・安定化の財源になり、消費税が 10% (2015 年 10 月予定)まで引き上げられた場合、消費税率 5%引き上げ分のうち、約 1% は子ども・子育て支援、医療、介護、年金の各 4 分野の充実に、残りの約 4%分は社会保障の安定化のための財源となると説明されています。

平成 25 年の 10 月に、名古屋市社会福祉協議会 法人化 50 周年記念講演会に参加しました。講師は、内閣官房社会保障改革担当室長の中村秀一氏で、講演テーマは「福祉：この 50 年の歩みとこれからの展望」でした。内容は、日本の社会保障制度 50 年の歩みについてでした。冒頭の消費税増税のことが頭にあったので、この講演の最後で説明された「地域 (1 中学校区) の状況」が、私にとって驚きの内容でした。これから紹介するデータは最近のものではなく、数年以上前のデータで、全国一律に平均した場合の 1 中学校区あたりの社会保障に関する金額を積算したものです。

全国に中学校が 10992 校あるそうで、1 中学校区あたりの人口は 11, 623 人。1 中学校区あたり、介護、障害、児童、生活保護、医療それぞれにかかる金額は以下のとおりだそうです。

介護：6 億 522 万円 (要介護認定者一人あたり 154 万円)

障害：8, 139 万円 (自立支援給付者一人あたり 173 万円)

児童：1 億 1, 922 万円 (保育所児一人あたり 61 万円)

生活保護：2 億 3, 858 万円 (一被保護世帯あたり 243 万円、被保護者一人あたり 173 万円)

医療：29 億 4, 759 万円 (住民一人あたり 25 万円) みなさまは、このデータをどのように考えますか。私は思っていた以上に介護や医療、生活保護にお金がかかっていると思いました。しかし、現在の介護や障害福祉サービスの量的にも質的にも満足している人は少ないと思います。それでも、こんなに多額の費用がかかっているのです。一人あたりの金額を比べてみると、児童や医療が一人あたりの額が少なくなっています。医療については、健康であれば医療費はかかりません。病気になって初めて医療費が発生するわけです。手軽に病院を受診することで医療費が膨らんでいるという側面は否定できないと思います。一人あたりの額が少ないといっても、25 万円は多額と言わざるを得ません。

このように現在、多額の社会保障費がかかっています。消費税を上げて当面しのいだとしても、2060 年には高齢化率は 40%と推定されていて、介護や医療にかかるお金はますます増加していくのではないのでしょうか。お金が足りなくなる、増税する、の悪循環になるだけのように思えて仕方ありません。お金をいくらでもかければよいというわけではないと思います。1999 年の「社会福祉基礎構造改革」では、「信頼と納得が得られるサービスの質と効率性の向上」が示されています。福祉分野でもコスト感覚が求められているのです。欲を言ったらキリがありません。

「足るを知る」ことも重要なのではないかと思うのですが、みなさんはどのようにお考えですか。

## 脳外傷リハビリテーション講習会

一般社団法人日本損害保険協会の助成をいただいて、昨年 11 月 2 日（土）名古屋市中区の鯉城ホールで脳外傷リハビリテーション講習会を開催いたしました。当事者・家族や医療・リハビリ関係者、社会福祉施設支援者・支援員、行政関係者等 248 名の参加をいただきました。第 1 部は、名古屋市総合リハビリテーションセンター 深川 和利氏の司会で、神奈川リハビリテーション病院医師の 大橋 正洋氏に「高次脳機能障害者支援について ～家族会の立ち上げから現在まで～」と題してご講演頂きました。

30 年ほど前、米国には脳外傷リハビリテーションに関する論文が非常にたくさんあったのに対し、日本には全くない状態。先生は、米国連邦政府の取り組みや当事者家族の活動などを研究された後、総合的なリハビリテーションを提供する施設は脳外傷のリハビリテーションにも取り組まなくては行けないと言われ、また日本にも家族会が是非とも必要であると強く提唱してこられました。



大橋 正洋氏

脳外傷の人が安定した生活を送るため、社会復帰へ向かうためには



深川 和利氏

順を追ったリハビリテーションが必要なこと、当事者家族を取り巻く環境（医療・福祉・行政など地域の専門家）がしっかり連携して自信を持って支援していくためには、個々の当事者家族の困難さについて注意をもって耳を傾け、科学的な根拠をもって取り組むことが大事であるとお話されました。

第 2 部は、岐阜医療科学大学教授の 阿部 順子先生が座長を務め、当事者ご家族とヘルパーをシンポジストに体験談をお話いただきました。障害による後遺症の現れ方は 100 人 100 様、その中のお一人の例でしたが、20 年にわたるご家族の関わりの中から、どなたにも経験のあるような事例や対処方法をわかりやすくお話いただきました。



長谷川 真也氏

最後に、会場からのいくつかの質問の手が上がりました。

Q 高次脳機能障害者の支援にあたり家族からの情報が役立ったと思うが、ヘルパーとして「こんな支えがあると尚良い」と思うことは？（相談支援専門員）

A 高次脳機能障害支援におけるヘルパー講習会に参加して、ある程度基礎を勉強したことが支援に役立った。支援に関わる方たち、地域の人達にもこのような研修の場・講習会の機会をぜひ利用して、障害について知ってもらうことが大切だと思う。（ヘルパー）

※補足：みずほ主催のヘルパー講習会を出前バージョンで取り組み始めている、専門家と家族の体験の話をセットで行うので、各地域でぜひ企画してい